独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	看護学概論Ⅰ	1	15	1年次　・　1学期

担当講師	野々川　陽子　（専任教員；病院での看護経験あり）
授業概要	看護の基本となる概念（人間・健康・環境・看護・生活）を土台とし、看護とは何かについて考える。実践科学としての看護、看護の役割、看護理論を学びながら、看護の理解と対象への関心を深める。さらに保健医療福祉活動における看護の特徴、専門職業人としての看護師について学ぶ。
授業目標	1. 看護学の概念を明確にし、看護学の意義、必要性、看護実践の理論についての基礎を学ぶ。 2. 看護の対象である人間を健康と生活環境との関わりの中で理解し、その人に応じた看護の必要性を学ぶ。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回	1. 看護について考える 1) 学問としての看護 - 職業としての看護 - 患者中心の看護 2) 看護の対象 3) 看護とは何か（看護の目的） 2. 人間について考える 1) 人間とは何か 2) 人間の共通性と個別性 3) 基本的看護の構成要素 3. 看護の役割と機能の理解 1) 法的・倫理的責任 2) チーム医療における連携と協働 3) 患者の自立と支援 4) 看護が機能する場 4. 安全・安楽の追求 1) 医療における安全 2) 医療における安楽 5. 専門職としての看護 6. 認定試験	第1～2回 講義 第3回 グループワーク 第4～7回 講義 第8回 筆記試験	野々川 講師

自己学習 関連科目	ナイチンゲール「看護覚え書」を読み、授業に臨む。 ヘンダーソン：「看護の基本となるもの」を読み、主旨をまとめる。 関連科目：健康論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ～Ⅶ
テキスト	新体系看護学全書　基礎看護学1　看護学概論　(メヂカルフレンド社) フローレンス・ナイチンゲール：「看護覚え書」－看護であること看護でないこと－（現代社） ヘンダーソン：看護の基本となるもの　（日本看護協会出版会）
評価方法	筆記試験：50%、課題レポート等：50%

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	看護学概論Ⅱ	1	15	1 年次　・　2 学期

担当講師	野々川　陽子　（専任教員；病院での看護経験あり）
授業概要	看護の歴史から人々の尊厳を守り生活を支えてきた看護の本質について理解を深める。看護専門職業人として看護の現場にある倫理的課題に気づき行動するための看護倫理の基本的知識を学ぶ。看護研究の必要性とアドボケイトとしての看護者の役割を理解し、リサーチマインドを育み、3 年次の「看護の実践Ⅳ」（ケーススタディ）に繋げる。
授業目標	1. 看護の原点と職業としての看護の成り立ちについて学ぶ 2. 看護倫理の基本的知識を学び、自己の看護実践から倫理的課題について考える 3. 根拠に基づく看護実践のために、看護研究の重要性を理解する

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回	1. 看護の歴史	第 1～7 回	野々川
	1) 看護の原点と職業としての看護	講義	講師
第 2 回	2) 戦後から現在まで		
第 3 回	2. 看護倫理の基礎知識		
	1) 倫理学の基本的な考え方		
	2) 生命倫理の 4 原則		
	3) 看護実践上の倫理的概念		
第 4 回	4) 看護師の倫理		
第 5 回	5) 看護職の倫理綱領		
第 6 回	6) 倫理的問題のアプローチ		
第 7 回	3. 看護研究の基礎		
	1) 看護研究の必要性		
	2) 看護研究における倫理		
第 8 回	認定試験	第 8 回 筆記試験	

自己学習関連科目	関連科目：倫理学、看護学概論 I
テキスト	新体系看護学全書　基礎看護学 1　看護学概論(メヂカルフレンド社) 系統看護学講座　看護倫理（医学書院）
参考図書	ナイチンゲール伝　図説　看護覚え書とともに　医学書院
評価方法	筆記試験：60%、課題レポート等：40%
備考	レポート課題については、後日詳細を提示する。

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅰ	1	30	1年次　・　1学期

担当講師	横山　啓子[1)]　　前田　麻利亜[1)]　　[1)] 専任教員；病院での看護経験あり
授業概要	看護師が行う看護行為の包括的概念である看護技術についての理解を深める。 すべての看護実践の基盤となる、対象の理解と相互の関係成立に欠かせないコミュニケーション技術、感染予防の技術について講義・演習を通して学習する。また、人間の生活行動に大きく影響を与える環境について、人間と環境との関係や療養環境の調整の方法を、講義・演習を通して学習する。
授業目標	1. 看護技術の特徴、基本原則を理解する。 2. 人間のコミュニケーションは「意思を伝え他者とわかりあう」ことを理解する。 3. コミュニケーション技術を用いて看護の目的を達成していくことの重要性を理解する 4. 感染予防のための援助技術を習得する。 5. 人間と環境の関係と生活に影響を与える環境の構成要素について理解する。 6. 療養環境を整えるための技術を習得する。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第1回 ～3回	1. 看護を実践するために必要な技術 1) 人間の生活行動とは 2) 基礎看護技術とは何か 2. 良好な人間関係づくりに必要な技術 1) 話すこと、聞くことの意義 2) 声を出す、聞く、言葉を認識するメカニズム 3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4) 看護の対象を理解するためのコミュニケーション技術 5) 話すこと、聞くことが困難な人の状況と援助	第1～3回 講義	第1回 ～3回 横山講師
第4回 ～14回	3. 外敵から身を守る技術 1) 感染予防の意義と方法 2) 感染症の成立過程と要素 3) 感染症を予防するためのプロセス (1)微生物を伝播させないための看護技術 （スタンダードプリコーション、感染経路別予防策） (2)感染源を死滅・滅菌させるための看護技術 （手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作） (3)感染性廃棄物の取り扱い (4)針刺し・切創の防止 4. 環境を整えるための技術 1) 環境とは (1)環境と人間の関係 (2)環境の構成要素 2) 療養環境の調整の意義と調整方法 (1)快適な療養環境を整えるための視点 (2)快適な療養環境の条件と環境調整の必要性 (3)崩れにくく快適なベッドメイキング	第4～5回 講義 第6回 技術演習 第7回 講義 第8～14 技術演習	第4回 ～14回 前田講師

第 15 回	①基本的なベッドメイキング （クローズドベッド・オープンベッド） ②臥床患者のリネン交換 5.　技術試験（1h） 6.　認定試験（1h）	第 15 回 技術試験 筆記試験	第 15 回 前田講師
自己学習 関連科目	事前に学習内容に関して文献を調べておく。技術演習は、事前に講義資料・教科書で技術内容を復習し望むこと。技術の自己練習は主体的に行い、反復練習を行うこと 関連科目：人間関係論Ⅰ、心理学、ホスピタリティ論、解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、 看護学概論Ⅰ、地域、在宅看護論、基礎看護技術Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		
テキスト	新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　　メヂカルフレンド社 新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　メヂカルフレンド社		
参考図書	看護における形態機能学（日本看護協会出版会）、看護技術プラクティス（学研）		
評価方法	筆記試験：60％（横山講師 15％、前田講師 45％）、技術試験：40％		

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅱ	1	30	1 年次　・　1 学期

担当講師	津田　朋恵　　（専任教員；病院での看護経験あり）
授業概要	対象の健康状態を評価するために身体の状態を捉え、判断するフィジカルアセスメントについての思考と適切にからだの状態を把握する方法について学ぶ。
授業目標	1.　対象の健康状態を捉えるための基礎的フィジカルアセスメントを理解する。 2.　対象の健康状態を判断するためのフィジカルイグザミネーションを習得する。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回 第 2 回 ～6 回	1.　看護におけるヘルスアセスメント 2.　フィジカルアセスメントの基本 1)　体表解剖とフィジカルアセスメント 2)　フィジカルアセスメントにおける基本技術 3)　一般状態のアセスメント①：バイタルサイン 4)　一般状態のアセスメント②：身体計測	第 1～4 回 講義 第 5～6 回 技術演習	津田講師
第 7 回 ～12 回	3.　系統的なフィジカルアセスメントの実際 1)　体表面のアセスメント 2)　呼吸器系のアセスメント 3)　循環器系のアセスメント 4)　腹部・消化器系のアセスメント 5)　感覚系のアセスメント 6)　脳神経系のアセスメント 7)　姿勢保持・運動系（脊椎・小脳反射）のアセスメント 8)　呼吸・循環を整える援助（体温管理・保温の援助）	第 7～9 回 講義 第 10～12 回 技術演習	
第 13 回 第 14 回 第 15 回	4.　心理的・社会的状態のアセスメント 5.　セルフケア能力のアセスメント 6.　技術試験：バイタルサイン（1h） 7.　認定試験・まとめ（1h）	第 15 回 技術試験 筆記試験	

自己学習関連科目	関連する解剖生理について学習してから授業に臨んでください。技術は各自練習を繰り返し、その技術高めること 関連科目：解剖生理学Ⅰ～Ⅲ　基礎看護技術Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
テキスト	新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　　メヂカルフレンド社 新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　メヂカルフレンド社 熊谷たまき他監修　看護がみえる　フィジカルアセスメント　　MEDIC MEDIA
参考図書	山内豊明　フィジカルアセスメントガイドブック　（医学書院） 看護技術　プラクティス　(学習研究社)
評価方法	筆記試験及びレポート課題等：60%、技術試験：40%

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅲ	1	30	1 年次　・　1 学期

担当講師	北道　夕貴子 1)　　松井　ねむ 1)　　1) 専任教員；病院での看護経験あり
授業概要	活動と休息の意義を理解し、対象のもつ力に応じた支援方法を講義・演習を通して学ぶ。 食事の意義を理解し、食事に関連する一連の生体メカニズムを理解した上で、自力で食事摂取が困難な対象（口腔ケアを含む）の支援方法を講義・演習を通して学ぶ。
授業目標	1.　活動と休息の意義・支援方法を理解し、その技術を習得する。 2.　食行動の意義・支援方法を理解し、その技術を習得する。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回 第 2 回 ～3 回	1.　活動を支える技術　　※「動く」、「眠る・休む」の生活行動 1)　活動と休息の意義 2)　活動に影響する要因とアセスメント 3)　活動促進や安静の弊害防止の技術 （廃用症候群、ﾎﾞﾃﾞｨﾒｶﾆｸｽを活用した体位変換、安楽な姿勢・体位の保持） 体位変換の実際（演習：水平移動、仰臥位⇔側臥位⇔端座位）	第 1～2 回 講義 第 3～7 回 技術演習	第 1 回 ～9 回 松井講師
第 4 回 ～5 回	4)　移動を支える技術（杖、歩行器、車椅子、ストレッチャー） もつ力に応じた補助具の種類、その選択、使用方法、移乗と移送の技術 移乗・移送の実際（演習：車椅子・ｽﾄﾚｯﾁｬｰ移乗・移送、歩行介助）		
第 6 回 ～7 回	2.　休息と睡眠の意義、休息を支える技術（安静保持の援助、睡眠の援助）	第 8 回 講義	
第 8 回	3.　活動と休息への支援を考える	第 9 回	
第 9 回	4.　体位変換の技術チェック（1h）	技術チェック	
第 10 回 ～11 回	5.　食行動を支える技術 1)食べる意義　　2)食べるメカニズム 3)食行動の種類　4)食事の種類（治療食・療養食） 5)栄養状態のアセスメント方法	第 10～12 回 講義	第 10 回 ～14 回 北道講師
第 12 回 ～13 回	6.　自力で食事摂取が困難な対象の食事援助技術 1)　食事介助 (1)　食事介助の目的と方法 (2)　食事介助の実際（演習）	第 13～14 回 技術演習	
第 14 回	2)　口腔ケア (1)　口腔ケアの目的と方法 (2)　口腔ケアの実際（演習）		第 15 回 松井講師
第 15 回	認定試験（1h）	第 15 回 筆記試験	北道講師

関連科目	解剖生理の知識が必要となるため、心肺機能、運動機能、感覚機能、反射など学習する。演習は、講義で学習した技術について教科書・資料を熟読し参加する。 安全を守るには技術を要するので、各自個人でも練習を重ねること。 関連科目：『解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』の「循環器・呼吸器・運動器など」、『基礎看護技術Ⅰ』の「環境」

テキスト	新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社 新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社
参考図書	菱沼典子　看護　形態機能学　生活行動からみるからだ（日本看護協会出版会） 藤本真記子　看護技術がみえる①基礎看護技術（メディックメディア）
評価方法	筆記試験：松井講師（60%）、北道講師（40%）
備考	不用意であると怪我や腰痛などの発生の恐れがあるため、十分留意して取り組むこと。

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅳ	1	30	1 学次・2 学期

担当講師	前田　麻利亜 1)　　中西　佳織 1)　　1) 専任教員；病院での看護経験あり
授業概要	身体をきれいにすること、衣服を着ること、排泄することは人間が健康的な日常生活を営む上で欠くことのできない生活行動である。科学的根拠に基づく理解をした上で健康障害時における基本的な支援技術を患者役・看護師役を通して技術の習得をめざす
授業目標	1. 身体をきれいにする意義・衣生活への支援方法を理解しその技術を習得する 2. 排泄を整える方法を理解しその技術を習得する

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回	1. 衣生活の支援技術 1) 衣生活を整えることの意義 2) 衣生活に影響する要因 3) 衣生活へのアセスメント 4) 寝衣交換の技術	第 1～2 回 講義	第 1 回 ～9 回 前田講師
第 2 回	2. 身体をきれいにする支援技術 1) 清潔の意義 2) 清潔に影響する要因 3) 清潔のアセスメント		
第 3 回 ～9 回	4) 清潔支援の適応とその具体的方法 (1) シャワー浴　機械浴 (2) 部分浴（手浴・足浴）・整容 (3) 洗髪 (4) 陰部洗浄　　(5) 全身清拭	第 3～9 回 技術演習	
第 10 回 ～12 回	3. 排泄の支援技術 1) 人間の生活における排泄の意義（生理的・心理的・社会的） 2) 排泄のメカニズム 3) 排泄に影響を与える要因 4) 排泄に関するアセスメントの視点 5) 自然排泄（排尿・排便）を促す支援 (1) 尿器・便器 (2) ポータブルトイレ (3) オムツ	第 10～12 回 講義	第 10 回 ～14 回 中西講師
第 13 回 第 14 回	6) 尿器・便器を使用する排泄支援技術の実際 7) 排泄に困難をきたしている人への支援（摘便・浣腸）	第 13～14 回 技術演習	
第 15 回	4. 技術試験（1h） 5. 認定試験・まとめ（1h）	第 15 回 技術試験 筆記試験	第 15 回 前田講師 中西講師

関連科目	事前に学習内容に関して文献を用いて調べておく 講義で学習した技術は教科書・資料を熟読し、演習に参加すること
テキスト	新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術　Ⅰ　メヂカルフレンド社 新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術　Ⅱ　メヂカルフレンド社
参考図書	授業の中で提示する
評価方法	筆記試験：60%（前田講師：20%　中西講師：40%）、技術試験：40%

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅴ	1	30	2 年次　・　2 学期
担当講師	竹田　千鶴 1)　　中西　佳織 1)　　1) 専任教員；病院での看護経験あり			
授業概要	予約時の看護師の役割を踏まえ、予約方法の実際について既習学習を活用しながら演習を通して学ぶ。また、県査における看護師の役割をふまえ、採血検査のための静脈内採血の実際について演習を通して学ぶ。			
授業目標	1.　診療（治療・検査）における看護師の役割が理解できる。 2.　与薬の種類とその特徴を理解し、確実に与薬する基本技術を習得できる。 3.　検査における看護師の役割を理解し、静脈血採血ができる。			

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回 第 2 回 第 3 回 ～4 回	1.　検査時の看護技術 1）検査の概念と看護師の役割 2）検査の種類と方法　3）採血の方法 2.　簡易血糖測定の方法（演習） 3.　静脈血採血（演習）	第 1～2 回 講義 第 3～4 回 技術演習	第 1 回 ～4 回 中西講師
第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	4.　与薬の看護 1)　与薬における看護師の役割 2)　薬剤の種類と取り扱い 3)　与薬方法と効果の観察 4)　与薬の副作用(有害事象)の観察 5)　経口与薬法の援助　6)　与薬の実際 5.　外用薬の皮膚・粘膜適応 1)　口腔内与薬法　　2)　直腸内与薬法 3)　塗布・塗擦法・貼付 4)　薬液噴霧法　　5)　その他（膣剤・点眼法） 6.　与薬法の実際　演習（直腸内与薬法・グリセリン浣腸） 7.　注射薬による与薬の援助 1)　目的・適応　　2)　注射の種類 3)　注射法の使用器具と取り扱い 4)　注射薬　　5)　注射薬の準備と実際	第 5～8 回 講義	第 5 回 ～14 回 竹田講師
第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	8.　注射薬の準備と実際　（演習） 9.　皮下注射（演習） 10. 筋肉内注射（演習） 11. 静脈内注射・点滴静脈内注射（演習） 12. 点滴静脈内注射をしている患者の看護 13. 輸血時の看護・注射法に使用する ME 機器 静脈血採血（技術チェック 45 分） 認定試験（45 分）	第 9～12 回 技術演習 第 13～14 回 講義 第 15 回 技術チェック 筆記試験	第 15 回 中西講師 竹田講師

自己学習 関連科目	既習内容の解剖生理学・薬理学は復習して授業に臨むこと。 関連科目：基礎看護技術Ⅰ、看護の実践Ⅲ、成人援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、小児援助論、
テキスト	新体系看護学全書　基礎看護学②③　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（メジカルフレンド社）
参考図書	看護につながる形態機能学　メジカルフレンド社 看護がみえる vol.2 臨床看護技術　医学情報科学研究所
評価方法	筆記試験及びレポート課題等：竹田講師（70%）、中西講師（30%）

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅵ	1	30	2 年次　・　1 学期

担当講師	竹田　千鶴[1)]　　坂本　泰子[1)]　　[1)] 専任教員；病院での看護経験あり
授業概要	生きているための生活行動を支える技術として呼吸・循環を整える診療の補助技術と救命処置技術、生きていくための生活行動を支える技術として、食事・排泄行動に関する診療の補助技術について、講義・演習を通して学習する。
授業目標	1.　呼吸・循環を整える診療の補助技術の適応を理解し、その方法を習得する。 2.　救命処置技術の適応を理解し、その方法を習得する。 3.　食事・排泄行動に関する診療の補助技術の適応を理解し、その方法を習得する。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	1.　呼吸に関する支援技術 1)　効果的に排痰を促す援助技術 (1)　気道内加湿　(2) 体位ドレナージ (3) スクイージング 2)　一時的吸引の適応とその具体的方法 (1)　口腔内吸引･鼻腔吸引　(2) 気管内吸引 3)　酸素吸入の適応とその具体的方法 (1)　酸素吸入法の実施　(2) 酸素ボンベの操作 2.　救命処置技術 1）生命危機状態のアセスメント 2）心肺蘇生の方法：一次救命処置　BLS　AED 3）包帯法、止血法 3.　食事に関する診療の補助技術 1）経鼻胃チューブの挿入・固定・確認 2）経鼻胃チューブからの流動食の注入 3）経管栄養法の観察 4.　排泄に関する診療の補助技術 1）一時的導尿 2）膀胱留置カテーテル挿入患者の観察 3）膀胱留置カテーテル挿入患者のカテーテル固定・管理・感染予防 5.　一時的導尿（技術試験 30 分） 認定試験（筆記試験　60 分）	第 1～3 回 講義 第 4 回 技術演習 第 5 回 講義 第 6 回 技術演習 第 7 回 講義 第 8～9 回 技術演習 第 10～11 回 講義 第 12 回 技術演習 第 13 回 講義 第 14 回 技術演習 第 15 回 技術試験 筆記試験	第 1 回 ～9 回 竹田講師 第 10 回 ～14 回 坂本講師 第 15 回 竹田講師 坂本講師

自己学習関連科目	事前に学習内容に関して文献を用いて調べておく 技術チェックは既習の 1 年次無菌操作を用いた技術となる。事前の復習・解剖生理学を踏まえ、イメージしながら繰り返し練習することが求められる。 関連科目：成人援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
テキスト	新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社 新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社
評価方法	筆記試験：60%（竹田講師：40%、坂本講師：20%）、技術試験：坂本講師（40%）

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅶ	1	15	1 年次　・　2 学期

担当講師	坂本　泰子　　（専任教員；病院での看護経験あり）
授業概要	看護は、対象者の現状や今起きている健康に関わる問題の原因を捉え、今後起こりうる問題も予測しながら、対象に合った看護支援を導き出し実施していく。その過程の中で、問題解決思考過程を用いて看護を展開していくことは有効である。そこで科学的根拠に基づき“対象を適切に捉え、看護上の問題点を導き、看護によって望ましい姿に近づける計画を立案し、実施・評価する”という、一連の看護過程の展開技術を学ぶ。
授業目標	1.　看護過程の目的と意義が理解できる。 2.　対象の現状に応じた看護を導くために看護を展開する過程がわかる。 3.　事例を通して、看護過程の展開の一連の過程を実践できる。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回	1.看護過程とは 1)　看護過程の目的・意義 2)　看護過程の基盤となる考え方	第 1～2 回 講義	坂本講師
第 2 回	2. 看護過程の展開技術 1)　看護過程の構成要素とプロセス		
第 3 回	2)　アセスメント 3)　看護上の問題の特定と優先順位の決定	第 3～7 回 グループワーク	
第 4 回	4)　看護計		
第 5 回	(1)　看護目標の設定 (2)　計画（具体策）の立案 5)　実施・評価		
第 6 回	3. 看護診断とは		
第 7 回	4. 看護記録		
第 8 回	5. 認定試験（45 分）	第 8 回 筆記試験	

自己学習関連科目	事例展開のために、事例の特徴的な身体機能や生理、生活や発達に関することを学習する。 関連科目：『症候治療論Ⅰ～Ⅳ』『症候各論Ⅰ～Ⅴ』『薬理学』
テキスト	新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社 看護が見える vol.4 看護過程の展開　MEDIC MEDIA
参考図書	NANDA-Ⅰ看護診断．定義と分類 2021-2023　（医学書院）
評価方法	筆記試験：60%、レポート課題等：40%

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	健康教育論	1	15	2 年次　・1 学期

担当講師	横山　啓子　　（専任教員；病院での看護経験あり）
授業概要	教育」「指導」の本来的意味合いを知り、その上で具体的な集団・個人に対する指導方法について理解する。さらに実習で活用できる健康教育を学習するために、実際の健康教育の対象者や患者体験を通して、「わかる」「できる」とはどういうことかを考え、対象者の目的を達成するための対象者に適した方法を考案する。
授業目標	1.「教育」「指導」の意味を理解する。 2. 健康を維持するための教育の方法を理解する。 3. 健康行動理論を理解し、実践への活用について理解する。 4. 健康教育の演習をとおして、効果的な健康教育の展開方法を体験する。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回	1.　健康教育の考え方 1)　健康教育の定義 2)　健康教育の目的	第 1～4 回 講義	横山講師
第 2 回	2.　患者教育の考え方 1)　患者教育とは 2)　患者教育の特徴		
第 3 回	3.　保健行動 1)　保健行動の分類 2)　保健行動への変容		
第 4 回	4.　健康行動理論の活用		
第 5 回	5.　患者指導の実際 1)　指導の効果を最大限に高める方法 2)　学習のニードのアセスメント 3)　指導の形態	第 5～6 回 グループワーク	
第 6 回	4)　対象に合わせた指導計画 5)　指導の評価 6)　健康教育の方法と媒体	第 7 回 プレゼンテーション	
第 7 回	6.　健康教育の実際 個別の健康教育の実際（個別指導）		
第 8 回	7.　認定試験（45 分）	第 8 回 筆記試験	

関連科目	関連科目：成人援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 、地域・在宅健康維持論
テキスト	最新保健学講座　別巻１　健康教育論　メヂカルフレンド社
参考図書	松本千明著：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎
評価方法	筆記試験：50%、プレゼンテーション・受講態度等：50%

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	健康障害援助論	1	30	1 年次　・　2 学期

担当講師	笠村　幸代[1)]　　横山　啓子[1)]　　[1)] 専任教員；病院での看護経験あり
授業概要	健康障害をもつ対象を理解し、その状態に応じた看護のあり方や支援方法を学ぶ。
授業目標	1.　各健康レベルにおける患者の理解と看護の特徴を学ぶ。 2.　治療を受ける患者および疾患、治療に伴う症状を示す患者の看護を学ぶ。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回 第 2 回 ～3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 ～7 回 第 8 回 ～9 回	1.　健康段階別援助 1)　健康障害のレベルとしての経過とは 2)　急性期にある患者の看護 (1)　急性期の治療の特徴 (2)　急性期にある患者・家族への援助 3)　救急治療と看護 (1)　救急治療を必要とする患者・家族の特徴 (2)　救急治療を受ける患者・家族への援助 (3)　救急蘇生法 4)　リハビリテーションと看護 5)　慢性期にある患者の看護 (1)　慢性期の疾患・治療の特徴 (2)　慢性期にある患者・家族への援助 6)　終末期にある患者の看護 (1)　終末期医療の特徴 (2)　終末期にある患者・家族への援助 (3)　臨終時の看護、死後のケア	第 1～9 回 講義	第 1 回 ～9 回 笠村講師
第 10 回 ～14 回	2.　症状別・治療別援助 1)　疾患、症状、治療・処置を関連づける意味 2)　主な治療（手術・化学療法・放射線療法）をうける患者の看護 3)　疾患、治療に伴う制限、制約等に関連する主な症状と看護 (1)　呼吸困難　(2)　循環障害　(3)　痛み (4)　悪心・嘔吐　(5)便秘	第 10～12 回 講義 第 13 回 グループワーク 第 14 回 プレゼンテーション	第 10 回 ～14 回 横山講師
第 15 回	3.　認定試験・まとめ	第 15 回 筆記試験	第 15 回 笠村講師

自己学習 関連科目	前期科目の解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・症候治療論Ⅰ、看護学概論Ⅰの知識が土台となります。 教科書及び関連科目の該当範囲を予習・復習して講義に臨んでください。 関連科目：病理学概論・症候治療論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・成人・老年・母性・小児看護学概論・地域・在宅看護対象論
テキスト	系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　　医学書院 新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社 新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社 系統看護学講座別巻　臨床外科看護総論　医学書院 系統看護学講座別巻　リハビリテーション看護　医学書院 系統看護学講座別巻　臨床放射線医学　医学書院　　＊必要時指示します
参考図書	川島みどり他　経過別看護　（メヂカルフレンド社） 高木永子　看護過程に沿った対症看護 - 病態生理と看護のポイント -（学研）
評価方法	筆記試験及びレポート課題等：笠村講師（75%）、横山講師（25%）
備考	DVD などを活用し、臨床イメージを高めながら学習する。

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	地域・在宅看護対象論	1	15	1 年次　・　2 学期

担当講師	小西　千恵子　　（専任教員；保健師、健康福祉センター勤務経験あり）
授業概要	地域・在宅看護の対象の地域・ライフステージ・健康レベルの多様性を理解する。 地域における暮らしを支える看護を理解する
授業目標	1.　地域の多様な特性が、そこで暮らす人々の健康に影響していることを理解する 2.　地域・在宅看護の対象である家族について、基本的な理解ができる 3.　地域における暮らしを支える上で、環境を整える看護が大切であることを理解する

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第1～6回	1.　地域・在宅看護の対象者 1)　地域による多様性 2)　ライフサイクルによる多様性 3)　健康レベルの多様性 2.　家族の理解 1)　家族の発達と課題 2)　家族システム 3)　家族と意思決定支援 3.　地域における暮らしを支える看護 1)　暮らしの環境を整える看護 2)　広がる看護の対象と提供方法 3)　地域における家族への看護 4)　地域におけるライフスステージに応じた看護 5)　地域での暮らしにおけるリスクの理解	第 1 回 グループワーク 第 2 回 講義 第 3～5 回 個人ワーク プレゼンテーション 第 6 回 講義	小西講師
第 7 回	4.　地域における暮らしを支える制度とその活用 金沢福祉用具ﾌﾟﾗｻﾞの見学	第 7 回 体験学習	
第 8 回	認定試験・まとめ	第 8 回 筆記試験	

自己学習 関連科目	社会学の家族と社会の内容を復習して臨む 関連科目：看護学概論Ⅰ・健康論・健康障害援助論
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ　医学書院
評価方法	筆記試験およびレポート課題等

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	成人看護学概論	1	15	1 年次　・　2 学期
担当講師	芝口　千穂　　（専任教員；病院での看護経験あり）			
授業概要	成人期の特徴は、人のライフサイクルの中で身体的･精神的に安定し、社会・経済的に大きな役割と責任を背負っている。本授業では、成人の位置づけおよび成人各期の特徴と発達課題を理解する。成人期にある対象の健康問題と健康生活を支える看護について学ぶ。			
授業目標	1. 成人看護の概念と構成、成人看護学の特性について理解できる。 2. 成人期における保健･医療･福祉の動向と課題が理解できる。 3. 成人看護における倫理と看護者の役割が理解できる。 4. 成人期にある人の健康レベルにおける枠組みが理解できる。 5. 成人看護に使用される理論・モデルが理解できる。			

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回	1. 成人看護学の対象論（成人の特徴と生活） 1) 成人の生活 2) 成人期の生活と取り巻く環境（インタビュー）	第 1～5 回 講義	芝口講師
第 2 回	2. 成人期の発達課題とその特徴 青年期・壮年期・中年期・向老期の身体・心理・社会的特徴		
第 3 回	3. 成人期の健康課題と生活に及ぼす影響 1) 生活習慣 2) 職業 3) ストレス		
第 4 回	4. 成人における健康の保持・増進や疾病の予防 1) 生活者への援助 2) ライフスタイルにおける成長発達への看護援助 3) 健康レベルに応じた看護援助		
第 5 回	5. 成人看護に使用される理論・モデル ストレス-コーピング、危機理論、自己効力、アンドラゴジー、セルフケア理論、病みの軌跡、エンパワーメント、健康信念モデル		
第 6 回 ～7 回	6. 成人期における健康課題への取り組み	第 6～7 回 グループワーク プレゼンテーション	
第 8 回	7. 認定試験	第 8 回 筆記試験	

自己学習関連科目	1 学期に学んだ生活科学、看護学概論Ⅰ、健康論Ⅰ、地域・在宅看護論を復習して臨む。 また、自己の周囲に在る大人の 1 日の生活や役割について知っておくこと 社会学
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　　医学書院 国民衛生の動向
評価方法	筆記試験：60%、レポート課題等：40%

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	老年看護学概論	1	15	1 年次　・　2 学期

担当講師	中村　ひとみ　　（専任教員；病院での看護経験あり）
授業概要	ライフサイクルにおける老年期の発達課題と健康問題について、身体的、心理・社会的な側面から理解し、老年看護の基礎となる考え方を学ぶ。 現代の高齢者の特徴、高齢者にとっての健康や QOL の意義について考える。
授業目標	1.　老年期をライフサイクルの流れの中で理解する 2.　高齢者に関する身体・精神・社会的な特徴について概要を理解する 3.　加齢に伴う変化が高齢者の生活に与える影響について理解する 4.　高齢者にとっての健康や QOL の意義について考える

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	1.　高齢者の特徴と理解 2.　加齢に伴う変化-身体機能の生理的変化 3.　加齢に伴う変化-心理・精神機能の変化/社会的機能の変化、老年期の発達課題 4.　高齢者の健康 高齢者の健康の評価:ADL・IADL、CGA、ICF など 高齢者の自立を妨げる要因（老年症候群、フレイル、サルコペニアなど） 高齢者の QOL に影響を与えるもの 5.　高齢者看護に関わる諸理論 エンパワメント、ストレングスモデル、ライフレビュー 6.　高齢者看護における倫理 ・高齢者の自己決定 ・高齢者の虐待と身体拘束 ・高齢者の自己決定を尊重するために 7.　高齢者の生活を支える制度・社会資源 ・高齢者の医療の確保に関する法律（高齢者医療確保法）に基づく制度 ・介護保険制度　（地域包括ケアシステム） ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 8.　認定試験	第 1～5 回 講義 第 6 回 グループワーク 第 7 回 講義 第 8 回 筆記試験	中村講師

自己学習および関連科目	高齢者へのインタビューで知った時代背景について自分でも調べて対象理解を深めましょう。 高齢者看護に影響する社会の動きに関心を向けていきましょう。 看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、社会学、健康論Ⅰ、地域・在宅看護概論、成人看護学概論、老年看護対象論、老年援助論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ
テキスト	ナーシング・グラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版 ナーシング・グラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版
参考図書	国民衛生の動向
評価方法	筆記試験：60%、課題レポート等：40%

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	小児看護学概論	1	15	1 年次　・　2 学期

担当講師	笠村　幸代　　（専任教員：小児科病棟で看護経験あり）
授業概要	小児期は人間のライフサイクルの中でも人生の基盤となる重要な時期であり、最も変化に富んでいるため成長発達段階において異なった特徴があることを学習する。小児医療・看護の歴史的変遷から現代社会の問題を知り、子どもをひとりの人間として捉え、子どもの人権を尊重した小児看護の役割を学習する。
授業目標	1.　小児の特徴と小児看護の基盤となる概念を理解する。 2.　小児看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状、小児看護の役割を理解する。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回	1.　小児看護の目ざすところ 1)　小児看護の対象、子どもの特徴 2)　小児看護の目標と役割 2.　小児と家族の諸統計	第 1～4 回 講義	笠村講師
第 2 回	3.　子どもの成長・発達 1)　成長と発達とは 2)　小児期の発達段階の区分、発達の領域、評価 3)　成長発達段階別の特徴（新生児、乳児、幼児、学童、思春期、青年期）		
第 3 回 ～5 回	4.　小児医療・小児看護の変遷 5.　小児看護における倫理 子どもの権利と権利擁護、医療現場でおこりやすい問題点と看護	第 5～6 回 グループワーク プレゼンテーション	
第 6 回	6.　小児看護の課題 7.　家族の特徴とアセスメント 子どもにとっての家族、家族アセスメント		
第 7 回	8.　子どもと家族を取り巻く社会 1)　社会資源の活用（法律、施策、制度） 児童福祉、母子保健、医療費の支援、予防接種、学校保健	第 7 回 講義	
第 8 回	認定試験	第 8 回 筆記試験	

自己学習 関連科目	小児を取り巻く社会環境・状況、小児の成長発達について調べておきましょう。 関連科目：母性看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院 国民衛生の動向
参考図書	筒井真優美：小児看護学　子どもと家族の示す行動への判断とケア　日総研 舟島なをみ　望月美知代：看護のための人間発達学　医学書院 小村美千代：小児をめぐる看護現象入門―事例から探る状況のとらえ方とケアの意味
評価方法	筆記試験：100%

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	精神看護学概論	1	15	2 年次　・　1 学期

担当講師	中西　佳織　　（専任教員；病院での精神科看護経験あり）
授業概要	心の発達や健康を踏まえ、個別性と普遍性の両面から心の病気の考え方を理解する。社会的環境の変化にともない精神保健のあり方も大きく変化してきた。精神保健の考え方と現代の社会病理の様相、生活の場面との関わりの中で捉えた精神保健の変遷、法制度とともに、精神看護の役割について学ぶ。
授業目標	1.　心の健康について理解する。 2.　心の健康に及ぼす要因について理解する。 3.　社会環境の変化による社会病理と精神保健にかかる精神看護の役割を理解する。 4.　精神保健活動の変遷、法制度の概要を理解する。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回	1.　精神看護学で学ぶこと 1）　精神・心の考え方（脳の機能構造・機能） 2）　精神障害をもつ人の病の体験 3）　心のケアと日本社会 4）　精神看護の課題	第 1～7 回 講義	中西講師
第 2 回	2.　精神保健の考え方		
第 3 回	1）　精神の健康 2）　心身の健康に及ぼすストレスの影響 3）　心的外傷と回復（レジリエンス・ストレングス） 4）　精神障害という考え方		
第 4 回	3.　心のはたらきと人格の形成 1）　こころのはたらき 2）　心のしくみと人格の発達 3）　精神力動理論		
第 5 回	4.　関係の中の人間 1）　システムとしての人間関係 2）　全体としての家族 3）　人間と集団		
第 6 回	5.　社会のなかの精神障害 1）　精神障害の治療の歴史（世界・日本） 2）　精神障害と法制度		
第 7 回	6.　医療の現場におけるメンタルヘルスと看護、リエゾン看護 1）　リエゾン精神看護とその活動 7.　災害時のメンタルヘルスと看護	第 8 回 筆記試験	
第 8 回	8.　認定試験		

自己学習・関連科目	心理や発達に関する用語および、医療に関する法規を再確認し授業に臨む。都度、用語の理解に努めてください。 関連科目：「精神看護対象論」「看護の実践Ⅰ」
テキスト	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院
評価方法	筆記試験及びレポート課題等（筆記試験 70%、レポート課題 30%）

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	臨床看護総論	1	15	3 年次　・　1 学期
担当講師	北道　夕貴子　　（専任教員；病院での看護経験あり）			
授業概要	臨床判断は、患者のニーズ、関心事、健康問題について解釈や統合を行い、アクションを起こすか起こさないかを判断し、標準的なアプローチを使うか、変更するかの判断、患者の反応によって適切とみなされる新しいことを即興で行うための判断である。臨床判断していくための基本的な考え方を学び、またそれを活用することで、患者の状況や適切だと考えられる支援を考え、看護の実践につなげる。			
授業目標	1. 臨床判断モデルの 4 つのプロセスが理解できる 2. 事例を臨床判断モデルの 4 つのプロセスを用いて展開することができる 3. 自身の看護実践を臨床判断モデルで振り返り、患者の状況やその時に適切だと考えられた支援について論理的に表現することができる			

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回 第 2 回 ～3 回 第 4 回 ～6 回 第 7 回 第 8 回	1. 臨床判断とは 臨床判断モデルにつながるコンテクスト・背景・関係性 2. 臨床判断モデルの 4 つのプロセス（共通事例） 1） 気づく 2） 解釈する 3） 反応する 4） 省察する 3. 自己の看護実践を臨床判断モデルで振り返る 1） 事例を用いて、臨床判断モデルの 4 つのプロセスで振り返る 2） （個人ワーク） 3） 個人ワークをもとに、グループで意見交換 4） グループ発表、全体共有 4. まとめ 5. 認定試験	第 1～4 回 講義 第 5 回 グループワーク 演示 第 6 回 グループワーク 演示 第 7 回 講義 第 8 回 筆記試験	北道講師

自己学習 関連科目	相手に対する関心から気づきは生まれます。自己の傾向を認識し、講義に臨みましょう。 関連科目：領域別実習
テキスト	系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　医学書院
参考図書	新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護学技術Ⅰ　メヂカルフレンド社
評価方法	筆記試験、レポート課題等

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	臨床看護の実践Ⅰ	1	30	3年次　・　1学期

担当講師	芝口　千穂[1)]　　中西　佳織[1)]　　[1)] 専任教員；病院での看護経験あり
授業概要	患者の状況を把握し、患者の反応によって適切とみなされる支援を即興で行うには多様かつ複雑な場、様相を捉え、柔軟に対応する能力が必要となる。 本科目では、事例を通して様々な症状を有する患者への看護の実践を行う。これまでに学習してきた知識と技術から、患者の状況を的確にとらえるためにアプローチし、患者の反応から適切とみなされる支援を実践し、看護の実践能力向上を図る。 また、自己の実践場面を振り返り、自己の思考・判断の根拠に気づき、自己の視野の拡大やものの捉え方など自身を内省する。さらに、専門職として言語化する能力も求められるため、グループで意見交換しながら 4 つのプロセスを辿り、臨床判断の基礎的能力を養う。
授業目標	患者の状況を把握し、患者の反応によって適切とみなされる支援を即興で行う 1. そこにある対象を全体的に把握しようとすることができる。 2. 対象をより的確に把握するための情報を収集し、推論することができる。 3. 事例において、得た臨床像が対象に及ぼす影響を考え、看護介入の方法を根拠を持って選択することができる（反応する） 4. 看護介入の後に対象の反応を観察し、その効果や影響を考えることができる。 5. 看護介入の途中で対象の反応からその効果や影響を捉え、必要に応じて介入方法をその場で修正することができる。 6. 自身の看護実践を、臨床判断モデルに基づいて論理的に説明することができる。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第1回 第2回 第3回 ～6回 第7回 ～10回 第11回 ～14回 第15回	1. 授業ガイダンス 2. 事例紹介・事例の解釈 3. 第1回看護実践（演習） リフレクション・グループワーク、発表、再実践（演習） 4. 第2回看護実践（演習） リフレクション・グループワーク、発表、再実践 5. 第3回看護実践（演習） リフレクション・グループワーク、発表、再実践 6. 全体を通してのリフレクション 自己の臨床判断における傾向及び課題の明確化	第1～2回　講義 第3回 グループワーク 第4回　演習 第5回　講義 第6回　演示 第7回 グループワーク 第8回 プレゼンテーション 第9～10回　演示 第11～12回 講義、プレゼンテーション 第13回　演示 第14回～15回 講義、プレゼンテーション	第1～6回 第11～15回 芝口講師 第7～10回 中西講師 第15回 芝口講師 中西講師

自己学習関連科目	知識だけでなく、原理原則に基づいた技術が実施できるよう各自タスクトレーニングを実施し臨む。 関連科目；専門基礎分野・健康障害援助論・成人・老年対象論・援助論

テキスト	系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　医学書院
参考図書	新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社
評価方法	課題、グループ討議、演示内容

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	臨床看護の実践Ⅱ	1	15	3 年次　・　2 学期

担当講師	北道　夕貴子　　（専任教員；病院での看護経験あり）
授業概要	患者の状況を把握し、患者の反応によって適切とみなされる支援を即興で行うには、多様かつ複雑な場、様相を捉え、対象の立場に立ち、柔軟に対応する能力が必要となる。また、その対応は対象の立場に立ち倫理に基づいた実践でなければならない。 本科目では、臨床看護総論Ⅰの学びや各看護学実習における看護実践力をもとに、場面における看護実践を即興で行う。実践後のリフレクションにおいて、自身の傾向と課題を明確にする。対象の状況・反応に気づき適切に思考・判断し行動する力、看護師としての倫理的態度を備え対象の最善を考えた実践についてグループ討議を通して思考し、適切な看護実践のあり方を再現する。
授業目標	1.　場面における看護実践から自己の傾向と課題を明確にできる。 2.　グループ討議を通して臨床判断の思考過程を辿り、適切な看護実践が理解できる。 3.　対象の状況・反応に気づき適切に思考・判断し行動することができる。 4.　対象の立場に立ち倫理に基づいた実践ができる。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4～6 回 第 7 回 第 8 回	1.　授業ガイダンス 2.　場面における看護実践演習 3.　場面のリフレクション　自己の傾向と課題の明確化 4.　グループ討議 ・　場面のリフレクションの共有 ・　臨床判断の思考過程を辿り、適切な看護実践を思考する ・　グループでの演示の準備 5.　グループでの看護実践の演示とディスカッション 6.　まとめ	第 1 回 講義 第 2 回 OSCE 第 3 回 講義 第 4～6 回 グループワーク 演示 プレゼンテーション 第 7 回 演示 第 8 回 講義	第 1 回 ～8 回 北道講師

自己学習 関連科目	内省により看護実践における自己の傾向を十分みつめ、自己の対策を立て臨む。 臨床看護総論、臨床看護の実践Ⅰ、看護の実践Ⅴ、総合実習
テキスト	系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　医学書院
参考図書	新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社
評価方法	課題　グループ討議・演示内容

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
統合	看護の実践Ⅳ	1	30	3 年次

担当講師	谷屋　千秋　　（専任教員；病院での看護経験あり、看護に関する研究業績あり）
授業概要	看護学生としてケーススタディをまとめることの意義を念頭に、自己の実習での体験をケーススタディの論文として、系統的にまとめていく。また、自ら問題意識を持ったテーマについて、文献検索し、担当教員に計画的に指導を受け、論文・抄録を完成する。その後、全体の場で発表し質疑応答を体験する。 将来、ケーススタディ、看護研究を行うための基礎的な能力を養うことにつなげる。
授業目標	看護の実践体験を系統的にまとめ、看護に対する考えを深める。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回	1.　看護における研究の意味	第 1～6 回 講義	谷屋講師
第 2 回	2.　研究の種類と特徴		
第 3 回	3.　ケーススタディの概念・意義、研究のプロセス		
第 4 回	4.　テーマの設定		
第 5 回	5.　文献検討の実際		
第 6 回	6.　文献を活用した支援の検討	第 7 回 文献検索	
第 7 回	7.　引用文献の用い方		
第 8 回	8.　研究計画書の作成		
第 9 回	9.　看護研究における倫理的配慮		
第 10 回	10. 論文のまとめ方		
第 11 回	11. 抄録のまとめ方		
第 12 回	12. 研究発表（原稿のまとめ方、発表方法）		
第 13 回 ～15 回	13. ケーススタディ発表・評価	第 13～14 回 プレゼンテーション	
	認定試験	第 15 回 筆記試験	

自己学習 関連科目	・実習中に感じた疑問や課題を書きとめておく。 ・実習中に感じた疑問や課題に関する文献検索をしておくとよい。 関連科目：各領域別実習
テキスト	わかりやすいケーススタディの進め方　照林社
参考図書	ケースを通してやさしく学ぶ看護理論　日総研 事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門　日総研 看護理論家の業績と理論評価　医学書院
評価方法	筆記試験：20%、及び論文等：80%

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門	看護の実践Ⅴ	1	30	3 年次　・　2 学期

担当講師	津田　朋恵　　（専任教員；病院での看護経験あり）
授業概要	看護職が対象者に責任をもってケアを提供するためには、必要なケアが効率的・効果的に提供されるようケアを調整、連携、評価する必要がある。看護の質を保証するためにその業務が職務として適切かどうか判断し、多重課題のなかでも日常業務が遂行できるマネジメントを学ぶ。
授業目標	1. 1 人の対象者の情報収集･アセスメントにより対象理解をし、対象者の状態に応じた看護を考えることができる 2. 看護業務遂行のために 1 日の業務の組み立てができる 3. 1 人ではできない業務の連携・調整、分担する場合、タイムマネジメントを行い、スケジュールの作成や優先順位の決定を行うことができる 4. 多重課題に対応するために、限られた時間や切迫した状況の中で、対象者の安全を配慮して、優先順位を判断し、行動することができる 5. 状況に応じて報告･連絡･相談を実施し、医療チームの一員として連携できる 6. 演習を通して、自己の特性や傾向、看護における課題を明確にできる

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第 1 回 第 2 回	1. ガイダンス　看護学生の実習記録･診療報酬の取り扱いに関する注意事項と安全に実習を進めるためにとる行動 2. 必要な情報を収集し対象者の状況に応じた看護を考える：SOAP 記録の確認	第 1～2 回 講義	津田講師
第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	3. 一人の患者の対象理解と安全、優先度、倫理的判断① 4. 一人の患者の対象理解と安全、優先度、倫理的判断② 5. 一人の患者の対象理解と安全、優先度、倫理的判断③ 6. 看護のマネジメント 7. タイムマネジメント、優先順位の決定と多重課題への対応 8. 1 日（24 時間）の業務の組みたて方、報告 9. 複数受け持ちにおける多重課題への対応① 10. 複数受け持ちにおける多重課題への対応② 11. 複数受け持ちにおける多重課題への対応③ 12. 多重課題の中で急性増悪した患者への対応① 13. 多重課題の中で急性増悪した患者への対応② 14. 多重課題の中で急性増悪した患者への対応③ 15. 筆記試験・まとめ	第 3～9 回 講義、グループワーク 第 10 回 演示 第 11～12 回 講義 第 13 回 演示 第 14 回 講義 第 15 回 筆記試験	

自己学習 関連科目	演習前の事前学習 関連科目：各領域別実習　総合実習　看護の実践Ⅱ
テキスト	ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践①：看護管理　メディカ出版
評価方法	筆記試験：40%、課題レポート等：60%

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門基礎	解剖生理学Ⅲ	1	30	1年次　・　1学期

担当講師	芝口　千穂[1)]　福島　倫子[1)]　　[1)] 専任教員；病棟での看護経験あり
授業概要	解剖生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を土台とし、看護の対象である人間の身体の仕組みと働きを学び、人間の日常生活行動をつかさどる仕組みを学習し、看護の必要性を判断する思考につなげる。
授業目標	日常生活で見られる行動・症状を解剖生理学の知識を使って説明できる。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第1回 ～7回	1.　生きているための生活行動 1)　なんのための生活行動か (1)　内部環境の恒常性 2)　恒常性維持のための物質流通 (1)　流通の媒体－血液 (2)　流通路（血管、リンパ管、脾臓） (3)　流通の原動力（心臓、血圧、血圧の調節） 3)　恒常性維持のための調節機構 (1)　神経性調節（受容体、中枢神経、末梢神経） (2)　液性調節（ホルモン）	第1～7回 講義	第1回 ～7回 福島講師
第8回 ～14回	2.　生きてゆくための生活行動 1)　動く 筋肉・神経・関節の役割　平衡感覚 2)　食べる 食欲・食べ物の選択・咀嚼、味わう・飲み込む・消化・吸収・代謝 3)　息をする 息を吸う・吐く（ガス交換） 4)　トイレに行く 便の生成、排便のメカニズム 尿の生成（体液の調節）、排尿のメカニズム 5)　眠る（休息） 生体リズムと恒常性 6)　お風呂に入る 皮膚・粘膜の役割、温まることへの身体への影響	第8～14回 講義 グループワーク プレゼンテーション	第8回 ～14回 芝口講師
第15回	3.　認定試験・まとめ	第15回 筆記試験	第15回 福島講師 芝口講師

自己学習 関連科目	生活行動の不思議、疑問点を解剖生理学の知識を使って説明できるよう学習を深める。 関連科目：解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、微生物学、生化学、基礎看護技術Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
テキスト	看護 形態機能学―生活行動からみるからだ　第4版　日本看護協会出版会 系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能1　解剖生理学　第11版　医学書院 熊谷たまき他監修：フィジカルアセスメントがみえる　MEDIC MEDIA
参考図書	増田敦子監修：解剖生理をおもしろく学ぶ　医学芸術社 清水茜著：はたらく細胞　講談社
評価方法	筆記試験および課題等（福島講師：50%、芝口講師：50%）

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画（Syllabus）

分野	授 業 科 目 名	単位数	時間数	開講時期
専門基礎	健康論Ⅰ	1	30	1年次　・　1学期

担当講師	中村　ひとみ　（専任教員；病棟看護師経験および病院での管理者経験あり）
授業概要	健康の概念を指標や歴史的動向から知る。また私たちの日常生活と健康との関連を理解し、健康と看護との関連を考える。その上で自らの健康に対する考え方やヘルスリテラシーの向上にむけ、実際のデータや事例を用いながら健康とは何かを考えられるように授業展開をしていく。
授業目標	1.　健康の概念を理解し、その上で健康と看護との関係性を考える。 2.　健康の指標について知る。 3.　日常生活行動が健康に及ぼす影響を理解する。 4.　自らの健康観をもつ。

回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
第1回	1.　健康の概念 1)　健康の理解 2)　病気ととらえた場合の健康レベルの理解	第1～11回 講義	中村講師
第2回	2.　健康政策 1)　疾病構造とライフスタイルの変化 2)　ヘルスプロモーションの概念とその活動 3)　わが国における国民の健康づくり対策　健康日本21の展開		
第3回	3.　ヘルスプロモーションの場 1)学校　2)職場　3)病院　4)家庭　5)地域		
第4回	4.　ストレスとヘルスリテラシー		
第5回 第6回	5.　日常生活と健康 1)運動と健康　2)睡眠と健康　3)食生活と健康 4)排泄と健康　5)口腔の健康　6)喫煙と健康		
第7回	6.　性の健康		
第8回	7.　精神の健康		
第9回	8.　地域の健康		
第10回	地域における健康づくり（公衆衛生）		
第11回	9.　保健統計から見る、日本・世界の健康格差	第12～14回 グループワーク プレゼンテーション	
第12回 ～14回	10.　統計指標から知る健康問題とその対応（演習） （健康問題を示すデータ、現状を引き起こす原因、誘因、今後の対策）		
第15回	認定試験・まとめ	第15回 筆記試験	

自己学習関連科目	身近な健康問題に関するデータや活動に関心をもつ。 関連科目：「看護学概論Ⅰ」の看護の役割や「医療概論」における医療施策、さらに「地域・在宅看護概論」で地域・在宅における看護の役割や支える制度等と関連させながら学ぶ。
テキスト	新体系看護学全書　別巻　ヘルスプロモーション　メヂカルフレンド社
参考図書	国民衛生の動向
評価方法	筆記試験（80%）および課題レポート等（20%）